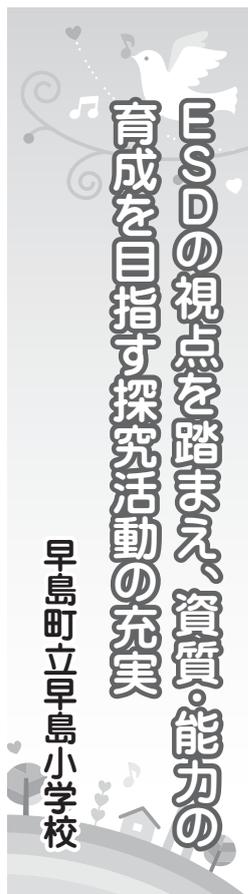


広げよう！優良実践の輪！

～平成30年度 優良実践校の取組～

取組 9



1 はじめに

本町は、昔、畳表の原料であるいぐさの栽培で栄え、今は物流、交通の要衝の地として発展しています。人口は約1万2千5百人、県内の市町村としては最小の面積ですが、人口密度は県内1位です。本校は全校814名で、児童は素直で何事にも一生懸命取り組むことができる一方で、地域の行事や人とのかわりに関心が低い傾向にあります。

2 取組の概要

(1) ESD (持続可能な開発のための教育) の視点を取入れた生活科、総合的な学習の時間の授業改善

研究主題を「地域とつながり 未来を拓く はやしまつ子の育成」ESDの視点を踏まえた保・幼・小・中連携カリキュラムの構築」と設定しました。早島町学校教育ビジョンのもと、

確かな学力を身に付け、広い視野と高い志、たくさんの夢をもつためには、校種を越えた結びつきや、それを支える地域との協働が不可欠です。また、児童・生徒に育みたい資質・能力として「自立」「共生」「郷土早島を愛する心」を掲げて、ESDの研究に取り組むことで、一貫教育の充実を図っていくことにしました。

(2) 指導計画の見直しと探究活動の充実

2年間の主な取り組みとして、以下の4点を行いました。

- ① 探究的な学習活動の見直しと年間指導計画の再構築
 - ② 育てたい力を明確にした学習プログラムの作成
 - ③ 評価規準表(グレード表)の作成
 - ④ つけたい力を明確にしたESDカレンダーの作成
- ESDの視点で重視する6つ



探究的な学習の中で、台風の進路を予測し、災害への対策を考える様子

の構成概念と、7つの能力・態度と、新学習指導要領の3つの柱(個別の知識・技能、思考力・判断力等、学びに向かう力・人間性等)との整理を行い、付けたい力を明確にした「単元学習プログラム」を各学年で作成するとともに、幼稚園・中学校との校種を越えた連携カリキュラムも作成しました。

(3) 発信の場の設定

授業での学びを、「子ども議会」「熟議」「子どもフォーラム」等で、地域提案として発信することで、地域への愛着やつながりを深めています。

3 成果と今後のさらなる取組の充実

身に付けたい力を明確にした指導を行ったことで、児童・生徒の探究への意欲が向上し、地域へ愛着をもつことができました。また、地域に向けて発信したことで、町民の方々にも様々な形で児童・生徒に関わっていただくことができ、児童・生徒のがんばる姿を届けられました。今後は、SDGsとESDとの関係性を明確化し、小学校での学びを活かした中学校でのカリキュラムの再構築を行ったり、教師の指導力向上を図ったりすることで、児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現していきたいと思えます。



子どもフォーラムでIGUSAのよさを劇で紹介している様子

(校長 越宗 倫生)

積極的な学力向上対策の実施による
学力・学習状況の復活

西粟倉村立西粟倉小学校

1 はじめに

本校の児童は落ち着いて学習に取り組むことができませんが、ここ数年、全国学力・学習状況調査で全国平均を下回るなど、学習内容の定着に課題が見られました。

そこで、学校組織全体で共通理解を図りながら、学力向上に取り組みました。

2 取組の概要

(1) 各種調査の活用と定着のための取組

「学力向上に向けた年間計画」に沿い、4月実施の全国・県学力調査の結果分析を受け、前学年の復習・弱点克服と該当学年の復習をした後、12月実施の村学力調査の結果を分析し、更なる復習を行いました。

「個人別・問題別集計表」を活用し、個人のおつまずきの把握と誤答分析を行い、個に応じた指導につなげました。併せて、字数制限や段落制限等の条件作

文にも取り組みながら、児童の主体的な学びを引き出すために、家庭学習での予習・復習も促しました。

通年	3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月
校内研究による授業改善	当該学年の復習	Web評価支援システム 問題データベース	村学力調査結果分析	村学力調査(該当年11月まで)	秋子エッセ	当該学年の復習 問題データベース	前学年の復習・弱点克服 Web評価支援システム 問題データベース 元しめテスト・トライシート	全国・県学力・学習状況調査 結果分析	個人懇談(保護者への連携)	前学年の復習・弱点克服 問題データベース	自校採点	全国・県学力・学習状況調査
	A			C				D			P	R

(2) 校内研究による授業改善

2年間、「魅力ある授業づくり徹底事業」の指定を受け、指導主事の指導助言や授業改革推進員の指導を積極的に受けました。



公開授業研究会での研究協議の様子



公開授業研究会の様子

校内研究は、研究教科を国語とし、教員全員による「めざす児童像」の共有と一人年1回以上の研究授業の実施、「板書記録一覧」による授業イメージの共有などを行いました。

公開授業研究会では、児童の発言をつなぐこと、学習の見通しをもたせること、ゴールイメージの共有を図ること、単元の目標を踏まえて毎時間の振り返り活動を行うことなど、授業の工夫を提案し実行しました。

(3) ふるさと元気学習

「ふるさと元気学習」では、総合学習の探究の過程(①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現)を大切にしながら、教科での学びを活用する力を育てる授業を行いました。教科の学習と総合的な学習の時間をつなぐカリキュラム・マネジメントも行いました。

3 おわりに

児童の課題を明確にすることで、RPDCAサイクルを機能させ、全国・県・村学力・学習状況調査において、ほとんどの教科・領域に改善傾向が見られました。

今後、子どもたちが「確かな学力」と「生きる力」を身に付けることができるよう、全教職員がめざす方向や方策を共有し、「チーム西小」として教育活動を進めていきたいと思えます。(校長 赤畑さとみ)